

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 3 月 31 日

職員 5名

事業所名 はぐはぐ子ども村西都

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	その日の利用定員に合った環境作りをしている。	適切に管理している。
	2 職員の配置数は適切である	5	0	基準配置より多くなるようにしている。	適切である。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0	写真や絵、図を多用して視覚支援を取り入れている。	随時適切であるか見直している。車いす対応のトイレがある。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	毎日、職員間で情報を共有し改善に努めている。	各職員が意見を出し合える環境を作り、それぞれの分野での意見交換をしている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	改善できるよう努めた。	ホームページにて情報公開する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	公表している。	公開中。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	保護者評価をしている。	意見を基に改善できるところは改善していく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	職員各自療育に必要と思われる研修に参加出来る体制を整えており適宜参加している。	引き続き、それぞれの職員が参加した研修をベースにした共通理解を継続する。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	保護者、療法士、保育士等の観察や意見を聞き計画を作成している。	現状維持。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	アセスメントを取り計画に役立てている。	今後も使用の継続をし支援計画に役立てていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	随時話し合いを持っている。	基本プログラムを基準に制作や季節に合わせた活動等計画をしていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	屋礼等で情報を共有している。	その時々状態に応じて職員間で話し合い共有している。これからも継続していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	個々に合わせて設定している。	専門職の意見も取り入れながら、職員間で個々に合わせた話し合いを持ち共有して支援している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	遊びの時間や会を設けて当番活動をしたりと個と集団と計画に沿った支援をしている。	支援内容を話し合い到達目標に向かって支援している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	屋礼をして情報を共有している。	役割分担をして取り組み補えない時は次回にそれを持ち越さない様に協議している。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	記録を残すなかで職員間で話し、共有している。	必ず振り返りを行い、次の支援に活かせるようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	個々の支援目標に対しての様子や関わりについてしっかり記録している。	職員の負担軽減をするために記録の内容の見直しをしている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	月別表、ケース会議をしている。	毎月ケース会議の中で話し合い常に職員間で共有し判断している。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	0	行っている。	提供すべき支援内容に基づき個々の支援に必要な項目が支援計画には選択されているが、利用者保護者への周知を工夫していく。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	児発管・保護者・相談支援員・その他必要に応じて学校・保育園等参加している。	現状維持。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	随時報告が入ると職員間で共有している。	保護者との連絡を基に、より素早い対応が出来るように努力していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	書面にて行っている。	要望があれば面談をする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	5	2年生までしか放デイがないため障害福祉サービス事業所等への移行は無い。	他の放デイに移行する時は担当者会をしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	同法人内に児発センターがあり職員研修をしたり助言を受けている。	今後も研修や相談、助言を求めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2	同事業所内に日中一時支援事業もしているので交流の機会はある。	法人内にも日中一時支援事業所があるため交流がある。また年2回のイベントを行っており利用者以外の参加もあるので交流の機会はある。今年にはコロナ禍のためイベントを中止した。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1	代表者が行っている。	現状維持。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	お迎えの際、保護者との会話の中で様子を伝えたり、課題等のに於いては個別支援計画の説明時に伝え理解してもらっている。	今後もより話しやすい環境作りをして、信頼と共通理解を深めていきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	保護者との話の中で利用希望があれば勧めていく。	代表が行っているペアトレの紹介を保護者に行っていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	玄関の目に付く所に掲示し、いつでも読めるようにしている。	契約時に説明を行っているが、より丁寧に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	話しやすい環境を作っている。	保護者からの相談があればその都度迅速に行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3	年に2回、全事業所や地域の方に声を掛け交流の場を設けている。	父母の会は無いが、イベント時に職員が声掛けをしたり、送迎時に保護者同士の連携が取れる様支援している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	窓口を置きすぐに対応できるようにしている。	保護者の対応には療育士とも連携を取り保護者の意見に傾けて迅速に対応している。保護者の要望があれば担当者会議を開いて対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	お便りにて発信している。	毎月の「お便り」にて活動や、日々の活動等発信しているが、自己評価の結果はホームページにて配信している。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	職員間でも細心の注意を払うよう周知している。	事務室の掲示物や個人情報等は目に入らない様に細心の注意を払っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	電話やメール、送迎時の保護者の対応等をこまめにしている。	電話やメールでのやり取りを丁寧にしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1	地域の行事に声掛けをしてもらっている。	書面にて周知し、招待をしている。今年にはコロナ禍で参加出来なかった。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0	室内に掲示し目にしやすくした。	保護者に対しての周知には説明の不足を感じているので改善していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	洪水では避難所へ行く訓練もしている。	各月地震・洪水・火事を想定して行っている。また「お便り」にて避難訓練の様子も発信している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	職員の配置を考え研修に行ける環境を整えられる。	職員が研修に行き全職員に周知している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	契約時に分かりやすく説明をしている。個別支援計画にも記載している。	職員に周知を図ったり、虐待の研修後の報告等で支援の在り方を学んでいる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	保護者より詳しく状況を把握しアレルギー反応のあるものを書面に起こし掲示している。	保護者からの相談があれば聞き取り対応している。また書面を台所、室内に掲示し全職員が周知できるようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	会議で共有している。	直ぐにヒヤリハット報告書を書き回覧した上で全職員に周知してもらうよう、会議でも話している。